

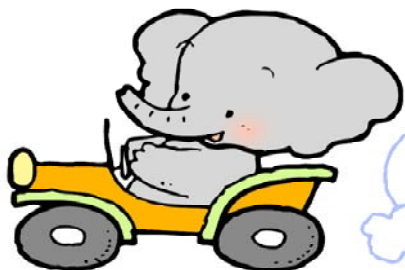
(先生向けの内容です)

# サイエンス・ワールド!!

2012, 11, 5(月)

第42号

那覇市立教育研究所  
理科通信



## これからの理科学習のポイント

～問題解決を取り入れた授業をめざして～

今年の8月に全国学力・学習状況調査の結果が公表され、理科における児童生徒の学力の実態が明らかになりました。また、理科の授業づくりにおける成果や解題も少しずつ見えてきました。これからの理科の授業を進める上でのポイントを考えていきたいと思います。



現行の学習指導要領、全国学力・学習状況調査の結果から、理科の授業づくりのポイントとして、以下の事柄があげられます。

- ★児童生徒が問題を追究して理解を得る「問題解決の授業」になっているか
- ★観察や実験が充実しているか
- ★小中の系統性が意識され、スパイラルな学びになっているか

「問題解決の授業」では、児童生徒が問題を追究し、「こうしたら、きっとこんなことが起きるだろう」「前に見た、あのやり方でできるかもしれない」と、見通しを持って、自分の力で問題を解決し、「わかった!」と納得して学び続けていく学習です。



また、問題解決の授業の過程では、「観察や実験」が重視されます。このことは、以下の点をより支えています。

- 予想や仮説の検証
- 新たな課題の発見
- 実験器具の扱い方の習得
- 科学的な用語・概念と現象の関連付け
- 実感を伴った理解を助ける

さらに、今回の改訂で理科は4つの区分（「エネルギー」「粒子」「生命」「地球」）になり、小学校・中学校・高等学校を学習内容の系統性が整理されています。当該学年の学習内容が他の学年（他の校種）の学習内容にどのようにつながっているのかしっかりと把握して、指導計画を立てることがもちろんですが、既習事項を他の単元、教科でも活かしていくことで、より深い理解・定着がなされるよう位置づけていく必要があります。（文責：玉村かおり）

